

二九三一番

思おもひつつ 居をれば苦くるしも ぬばたまの 夜よるに至いたら
ば 我われこそ行ゆかめ

二九三二番

心こころには 燃もえて思おもへど うつせみの 人ひと目を繁しげみ
妹いもに逢あはぬかも

二九三三番

相あひ思おもはず 君きみはまさめど 片かた恋こひに 我あれはそ恋こふる
君きみが姿すがたに

二九三四番

あぢさはふ 目めは飽あかさらね 携たづはり 言こと問とは
なくも 苦くるしかりけり